

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-7-14 (ビュレックス京橋)

電話 03(3528)6525 FAX 03(3528)6526

E-mail: ibl@ibltokyo.jp <http://www.ibltokyo.jp>

★ 非会員向け ★

★ 月例会のご案内 ★



実務の落とし穴がわかる！

IT・AI のゴールデンルール 30

「出版記念」月例会

早秋の候、会員の皆様にはご清祥のことと存じ上げます。

さて、会員企業においては、IT 技術や AI の進展に伴い、個人情報保護法の扱いなどに困ったり、AI が社内ですでに使われることとなり、法務の立場でどう考えるか悩んだり、多くの課題に直面しているかと思えます。こういった「情報法」に関して法務の必修ポイントについて、とりわけ、個人情報保護法や AI、システム開発、電子商取引などを扱う「情報法」実務の鉄則を、失敗事例とともに 30 のゴールデンルールとして解説する本が上梓されました。

具体的にこの本で取り上げる失敗事例は、「何が「個人情報」に当たるかわからない」とか「システム開発における仕様変更が続きプロジェクトが終了」、「EC サイト作成にあたり法令を見落とす」、「ネット上の誹謗中傷について最新の法改正を知らない」、さ

らには「依頼者からの生成 AI に関する質問に対応できない」など、実務で直面しやすいものを厳選しています。

今回、松尾先生のご厚意により、本出版を記念して、情報化が進む時代の企業法務では、IT・AI の法律問題は、知らないでは済まされません。「情報法実務の入門書」であるこの本のポイントをご解説いただきます。

日頃の契約実務にお役立となるこの機会に、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

日 時 2025 年 8 月 26 日 (火) 午後 2 時～3 時 30 分
内 容 「実務の落とし穴がわかる！ IT・AI のゴールデンルール 30」について
講 師 松尾剛行先生 (弁護士/桃尾・松尾・難波法律事務所)
会 場 ハイブリッド方式 (国際商事法研究所会議室 または WEB)
※会議室への参加の定員は、10 名です。なお、先着順ですので、
定員に達し次第、お申込の受付を終了致します。
(その場合、WEBからの参加は引き続きお申込可能です。)
弊所会議室は感染対策 (室内空気清浄機導入済) を施しております。
定 員 10 名 (弊所会議室)、100 名 (Web)
参加費 非会員については、10,000 円 (税別) を参加費として申し付けます。
(出版社から、送料サービスの注文書を頂いており、書籍を予約される方は、
こちらをご利用ください。)

申込要領 参加をご希望の方は、①会議室参加 もしくは ②WEB 参加 をご記入の上、
直接、メールにてお申込み下さい。
[申込先] ibl@ibltokyo.jp (国際商事法研究所 事務局 鈴木)

※お申込に係る個人情報は、当月例会の受付事務に利用し、他には利用しません。

(ご講演内容)

IT・AI 法務 (情報法務) に強くなろう！

第 1 章 個人情報保護法にまつわる失敗

- 1 あれもこれも個人情報<個人情報の定義>
【失敗事例】公開されていても個人情報
- 2 本人同意の例外は厳格<クラウド上の個人情報>
【失敗事例】クラウド例外は万能じゃない
- 3 隠しても照合できたら意味なし<匿名化した個人情報>
【失敗事例】匿名化しても個人情報のまま
- 4 知識は行動に移せてこそ<本人からの請求への対応>
【失敗事例】実務対応の理解に至らず
- 5 当てはめを正しく<個人情報の漏洩等>
【失敗事例】「おそれ」も「滅失」も「毀損」も対応を！

第2章 システム開発契約にまつわる失敗

- 6 喧嘩両成敗<ユーザの協力義務とベンダのPM義務>
【失敗事例】 要求を受け入れ続けたほうも悪い
- 7 基準は「仕様通りかどうか」<完成と契約不適合>
【失敗事例】 最終段階に至ればひとまず「完成」
- 8 見切り発車では大惨事に<パッケージ開発>
【失敗事例】 Gapが大きいなら諦める選択も
- 9 無限に仕様変更できるはずがない<アジャイル開発>
【失敗事例】 「ユーザ有利」という言説に惑わされて
- 10 語感に翻弄されるなくフリーランス法>
【失敗事例】 法人成り企業も適用対象

第3章 オンライン取引にまつわる失敗

- 11 頻繁な改正に追いつく<特商法>
【失敗事例】 最終確認画面の入れ忘れ
- 12 類似のルールを見落とさない<電子消費者契約法>
【失敗事例】 音声だけが便利なのに画面表示が必要?
- 13 免責範囲をあいまいにしない<消費者契約法>
【失敗事例】 サルベージ条項を入れてしまい炎上
- 14 無条件とは限らない<電子化できる書面>
【失敗事例】 要件を見落として誤回答
- 15 無料でもステマ!<景表法>
【失敗事例】 インフルエンサーとのタイアップが裏目に

第4章 データと知財にまつわる失敗

- 16 取られたくなければ契約で縛る <派生データ>
【失敗事例】 受領者に無断使用される
- 17 兼業・副業の時流に乗る<競業避止義務の範囲>
【失敗事例】 合理的に絞ったはずなのに
- 18 下請けに押しつけるのはNG<知財不侵害条項>
【失敗事例】 同期の弁護士から指摘を受ける
- 19 外国のサーバは厄介<インターネットと知財>
【失敗事例】 外国での提供ならOKと勘違い
- 20 「特段の事情」に敏感に<不法行為によって保護される場合>
【失敗事例】 例外の最新裁判例を追えていない

第5章 電気通信事業法、プラットフォーム等の規制にまつわる失敗

- 21 クッキー規制は幅広い<クッキー (Cookie) 規制>
【失敗事例】 規制対象は個人情報だけじゃない
- 22 結論は簡単に逆転する<電気通信事業法の登録・届出の必要性>
【失敗事例】 質問力不足
- 23 利用者数が1,000万以上か<大規模事業者規制>
【失敗事例】 大規模事業者の要件を見逃して

- 24 変わり続ける誹謗中傷対策<情プラ法>
【失敗事例】最近の法改正を知らない
- 25 強者を縛る<プラットフォーム規制>
【失敗事例】依頼者を突き放してしまう

第6章 AIにまつわる失敗

- 26 AIは情報法の総合格闘技<生成AI>
【失敗事例】浅いアドバイスをしてしまう
- 27 分析する旨を特定すること<プロファイリング>
【失敗事例】法律相談の後に規制があったことを知る
- 28 「学習」と「利用」は峻別<AIと著作権>
【失敗事例】学習は著作権法30条の4で自由じゃないの？
- 29 似ていなくても責任追及可能<ディープフェイク>
【失敗事例】他の弁護士がやったら見事勝訴
- 30 徐々に練り上げる<AI開発>
【失敗事例】一大プロジェクトが頓挫